

ハンサリムの歩んだ道 一九八六～二〇一一

一九八六年 江原道原州地域で社会運動をしていた朴在一が農民たちと共に無農薬米と雑穀、胡麻油、有精卵をあつかって、ソウルの祭基洞チェギドに〈ハンサリム農産〉という米穀店を開いた。その当時わが国の農業と農村は、農産物市場の開放等によって将来の見通しが困難で、都市生活者の食卓もまた農薬と化学肥料、低質の輸入農産物等で危険な状況に置かれていた。小さな米穀店のハンサリムが希望の食卓のための種子になった。

一九八八年 ハンサリム共同体消費者協同組合を設立して、草創期から協同組合を組織運営の基本枠とした。消費者が生産者を訪ねて行き、農民と家族のような情を分かち合い互いに信頼を育てていく伝統が続いている。ハンサリム生産者協議会が結成された。

一九八九年 ハンサリム端午チャンチが始まり、これは小正月（陰暦正月一五日）チャンチ、秋の収穫祭へと広がって、消えかけていた共同体文化を復元するのに寄与した。この年に〈ハンサリムの集い〉が結成され、これを通してハンサリム宣言を発表し生命の世界観を世に伝え始めた。ハンサリム宣言に盛られた思想と意思は、その後平和運動、環境運動、人権運動、宗教運動などが国社会の多様な分野に影響を与えた。清州チョンジュで初めて地域ハンサリムが設立された。その後 慶尚南道キョンサンナムド、江陵カンヌン、原州の消費者生活協同組合がハンサリム地域組織として参加すると

共に、各地域ハンサリムが新たに設立され、今日のように全国二十の地域ハンサリム組織とハンサリム生産者連合会など部門組織を持つようになった。

一九九一年 慶尚南道の固城^{コソク}で国産小麦の栽培を始め、〈国産小麦の復活運動〉に火をつけた。国産小麦の種子がほとんど消滅した状況であったが、これを通して国産小麦に対する生産と消費が着実に増え、現在は全国各地で国産小麦をたやすく見られるようになった。

一九九三年 〈土のサリム研究の集い〉と〈土のサリム研究所〉を設立し、親環境有機農業に対する研究、普及活動を始めた。土のサリムはその後、在来種の微生物を利用した親環境農資材を生産普及して、わが国に親環境農業が根付き成長するのに大きく寄与した。

一九九四年 環境農業団体連合会の創立を主導し、これを通してわが国社会における親環境農業のすそ野を広げ、危機に瀕した農業と農村に代案を示した。

一九九五年 〈消費者が与える優良商品賞〉（女性新聞）を受賞した。その後鉄塔産業勲章、ソウル市環境大賞、農林部親環境農業大賞の受賞等ハンサリム活動に対して社会的関心が高まり、これに対する賞と勲章が相継いだ。

一九九七年 日本のグリーンコープ生協と共に、飢えた北朝鮮同胞を助けるためカンパを集めて送金した。二〇〇一年にはアフガニスタンの戦争難民を支援する募金、二〇〇六年には北朝鮮同胞および韓国国内低所得層の子供の自習室支援のための〈生命の米守護基金分かち合い運動〉など、国内外の区分なく困難に直面する隣人のための活動を粘り強く展開している。

一九九九年 〈水道水のフッ素化反対国民連帯〉を結成して、一方的な水道水のフッ素消毒に反対

する住民運動を始めた。その後もハンサリムの意図と指向に沿って食品安全、環境問題等を解決するため努力している。このため現在は〈安全な食物教育〉、〈学校給食運動〉、〈身近な食物運動〉、〈水田サリム活動〉、〈再使用・リサイクル増進活動〉〈遺伝子操作食品反対運動〉などを展開している。

二〇〇二年 〈モシムとサリム研究所〉を設立し、〈ハンサリムの集い〉の研究と活動を継承して生命文化運動を社会に普及させている。ハンサリム事業連合を創立してハンサリム産地直送事業の効率性を高め、地域ハンサリムを支援している。

二〇〇六年 ハンサリム創立二〇周年を迎え記念レコードを製作して、討論会と音楽会など記念行事を行った。また一億七千万ウォンの〈生命の米守護基金〉を創り、これを北朝鮮の高城地域コソンの託児所と韓国各地域の低所得層児童の学習室などに送達した。〈生命平和と環境農業大祝祭〉を協同で開催した。

二〇〇八年 図書出版ハンサリムを設立し、季刊『サリム話し』を創刊した。サリム話しを通してハンサリム内外のより多くの人たちと呼吸を共にしながら、当然の道理に合わせて生きていく土地と人々の話を伝え、より良い世界のための代案を模索している。

二〇〇九年 ハンサリムの会員が二十万人を超えた。キョンギドヨジュクアンミョン京畿道驪州、光明、ソウル龍山等ヨンサンに地域児童センターを設立し、低所得層と共稼ぎ夫婦の子どもを世話している。ハンサリム宣言宣布二十周年を迎え記念行事を行った。

二〇一〇年 地震災害で苦しんでいるハイチのために募金活動を行い、大洪水に襲われたパキス

タン農民の生産基盤復旧のために献金を集め送達した。アフリカに千ヶ所の屋敷畑を作る支援、ハンサリム生産地の異常気候による被害支援募金など国内外の低所得農民を助けるための募金活動を活発に行った。ハンサリムを設立し率いてきた篤農家の仁農^{インノン} 朴在^{パクジエイル}一会長が他界した。

二〇一一年 ハンサリムのすべての事業と活動を統括する代表組織のハンサリム連合が創立された。地震津波の被害を受けた日本の被災地住民を助けるための募金活動を展開した。放射能汚染と食料危機を考える討論会を開催した。二〇一一年一二月末現在、ハンサリムには消費者組合員約三十万所帯、生産者会員は全国七十八カ所の生産者共同体と個別生産者を含む約二千世帯が共に参加している。